

# 生誕140年 吉田博展

— けれども私は自然を崇拝する側に立ちたい —

2016年4月9日[土] — 5月22日[日]

会期 2016年4月9日(土) — 5月22日(日)

開館時間 10:00~18:00(金・土曜日は20:00まで) \*入場受付は閉館の30分前まで

休館日 4月25日(月)、5月2日(月)

観覧料 一般1200(960)円、大学生700(560)円

\*ごひいき割引 本展チケット(有料)半券のご提示で、会期中2回目以降の観覧料2割引

\*小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

\*()内は前売り、団体20名以上、市内在住65歳以上の方の料金

\*前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(3月25日まで)、ローソンチケット(Lコード:33414)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口(5月22日まで)にて販売

主催 千葉市美術館/毎日新聞社

特別協力 福岡市美術館

協力 mont-bell

協賛 ニューカラー写真印刷株式会社



《雲海に入る日》  
油彩 大正11(1922)年 個人蔵

## 展覧会概要

### 「絵の鬼」と呼ばれた男 —

吉田博(明治9年~昭和25年/1876-1950)は福岡県久留米市の生まれ。京都の地で三宅克己(みやくよき)の水彩画に感銘を受け、以来本格的な洋画修業を始めました。明治27年に上京して不同舎に入門、小山正太郎のもとで風景写生に励んで技を磨きます。明治32年には中川八郎とともに渡米、言葉もままならない異国で自作を大いに売って生活の資を得るといふ快挙をなし、アメリカ各地からロンドンやパリを巡って明治34年に帰国しました。以後も外遊を重ねて東西の芸術作法を見つめ、内外の風景に取材して水彩画や油彩画を発表、太平洋画会や官展を舞台に活躍を続けました。

とりわけ高山を愛し、常人の足の及ばぬ深山幽谷に分け入ることで描いた作品は、新たな視界や未知なる美を発見した驚きと喜びに満ちています。大正後期からは彫師・摺師と組んだ木版画に軸足を移し、伝統的な技術に洋画の表現を融合したかつてない精巧・清らかな造形で国内外の版画愛好家を魅了し続けました。

吉田博は生涯、世界における自らの位置を考え続けた画家といつてよいでしょう。その思考の跡が、湿潤な日本の風景をみずみずしく描いた水彩画であり、雄大な自然美を登山家ならではの視点からとらえた油彩画であり、浮世絵以来の技術を新解釈した木版画でした。比較的早くに評価の定まった白馬会系の絵描きたちに比し、長く埋もれてきた感のある博の画業は、今の私たちにどう映るでしょうか。「絵の鬼」と呼ばれ、水彩で、油彩で、木版画で世界に挑み続けた画人の「これが日本人の洋画だ」という答え —。生誕140年を記念し、代表作に初公開の写生帖などをあわせた300点超の作品からなるこの大回顧展で、とくにご覧ください。  
※会期中展示替えを行います。

#### ■吉田博略歴



23歳の吉田博。  
初の渡米直後の1899年10月23日、  
デトロイトで撮影したポートレート。

1876(明治 9)年		9月19日 旧久留米藩士・上田東秀之の次男として、久留米市に生まれる。
1891(明治24)年	15歳	修猷館の図画教師・吉田嘉三郎の養子となる。
1893(明治26)年	17歳	京都にて三宅克己と出会い、上京を決意。
1894(明治27)年	18歳	不同舎に入門。
1899(明治32)年	23歳	中川八郎とともに渡米、デトロイト美術館で二人展を開催し、成功をおさめる。ヨーロッパを巡り、1901年帰国。
1903(明治36)年	27歳	2回目の渡米、ヨーロッパからエジプトまでを巡り、1907年帰国。
1910(明治43)年	34歳	文展審査員に任命される。
1920(大正 9)年	44歳	初の木版画を制作。
1923(大正12)年	47歳	3回目の渡米、ヨーロッパを巡り、1925年帰国。
1930(昭和 5)年	54歳	インドを巡り、1931年帰国。
1936(昭和11)年	60歳	韓国・中国を訪れる。
1938(昭和13)年	62歳	陸軍省嘱託従軍画家として中国を訪れる。1940年まで継続。
1950(昭和25)年	73歳	4月5日 逝去

## みどころ

### ・近代風景画の巨匠、20年ぶりの大回顧展

吉田博の画業を網羅する回顧展は本展が2度目・20年ぶりとなり、前回の回顧展(※)の2倍を超える点数の作品をご紹介します。また、これまであまり公開されてこなかった従軍画家としての作品も出品されます。

※1996年「近代風景画の巨匠 吉田博展」(福岡市美術館他)

### ・水彩画から油絵、木版画へ

幼い頃から絵が得意で、画才を見込まれて吉田家の養子となった博は、生涯を通じて水彩画・油彩画・木版画といった多様なジャンルで風景を描き続けました。なかでも、本展ではとくに博のみずみずしい感性が伝わる水彩画、木版画に焦点を当てます。

### ・山に登り、山を描く

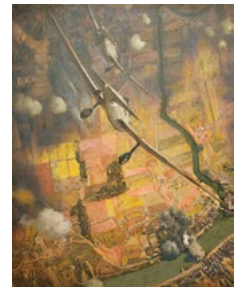
10代半ばから旅行・登山を好み、30～40代の頃には毎夏日本アルプス周辺の山に何ヶ月も籠って、写生しました。自ら登山することで、雲海を見下ろしたり山頂から見るといった独自の視点・構図の山岳風景の名作が誕生しました。

### ・マッカーサー、ダイアナ元妃にも愛された画家

若くして海外に渡った博ですが、当初から現・フリーア美術館創設者の実業家が作品を購入したり、ボストン美術館で展覧会が開かれるなど、早くから国外で高く評価されました。大正後期から手がけた木版画もいち早く米欧で人気が高まり、戦後は作品を介してマッカーサー夫妻と交流、またダイアナ元妃は自らの執務室に吉田博の木版画作品《瀬戸内海集 光る海》を飾っていました。

### ・反骨、そして徹底したプロ魂

「黒田清輝を殴った男」、「絵の鬼」と呼ばれるなど、妥協を許さない吉田博の姿は、生涯を通してぶれない作品にも表れています。水彩画と木版画は制作年代としては離れますが、その根底に流れる構図やテーマは一貫しています。また海外で取材・制作することで「海外から見た日本」「日本人が描くべき洋画とは？」という問いを持ち続け、「新たな洋画」として木版画に挑んだ博の姿が浮かび上がります。



《急降下爆撃》  
油彩 昭和16(1941)年 個人蔵



《瀬戸内海集 光る海》  
木版 大正15(1926)年 個人蔵



《フワテプールのシクリ》  
木版 昭和6(1931)年 個人蔵

## 関連企画

#### ◆オープニング記念講演会「吉田博・その人と芸術」

講師:安永幸一(元福岡市美術館副館長)

4月9日(土)14:00～(13:30開場予定)／11階講堂にて／先着150名／聴講無料

#### ◆講演会「吉田博の自然観と木版世界」

講師:吉田司(版画家／吉田博令孫)

5月3日(火・祝)14:00～(13:30開場予定)／11階講堂にて／先着150名／聴講無料

#### ◆講演会「吉田博のアメリカ開拓精神」

講師:吉田亜世美(アーティスト／吉田博令孫)

5月15日(日)14:00～(13:30開場予定)／11階講堂にて／先着150名／聴講無料

#### ◆市民美術講座「吉田博—残された資料が語ること」

講師:西山純子(当館主任学芸員)

5月7日(土)14:00～(13:30開場予定)／11階講堂にて／先着150名／聴講無料

#### ◆ギャラリートーク

担当学芸員による:4月13日(水)14:00～

ボランティアスタッフによる:会期中の毎週水曜日(4月13日を除く)14:00～

※水曜日以外の平日の14:00にも開催することがあります。

※混雑時には中止する場合があります。

#### ◆関連ワークショップ(事前申込制)

①「春の色をかさねる—オリジナルブックカバーづくり—」

4月23日(土)14:00～

11階講堂にて／定員20名／参加費1000円／対象 小学4年生以上

透明水彩と不透明水彩、筆彩と版画、それぞれの特徴に触れながら制作します。

②「からだを変える・風景が変わる」

講師:ベピン 結構設計

4月29日(金・祝)11:00～

11階講堂・美術館周辺にて／定員20名／参加費1500円(昼食代込み)

対象 小学生以上

身体の変化を促すエクササイズの後、お弁当とふしぎな「指示書」を持ってまちへ出かけます。演劇の手法を使い、普段とは違うからだで風景を再発見する、ピクニック型ワークショップです。

※天候に合わせた歩きやすい格好でお越しください。

※小学3年生以下の方は、保護者と一緒にお申込みください。

【申込方法】往復はがきまたはホームページからお申込みください。往復はがきの場合は、郵便番号、住所、電話番号、氏名、参加希望のイベント名、参加人数(2名までお申込可)、参加者の年齢を明記の上、「〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 イベント係」まで

※申込締切:ワークショップ①4月13日(水)必着、ワークショップ②4月19日(火)必着  
※当館ホームページで詳細をご確認の上、お申込みください。

## 同時開催

### 所蔵作品展 「四季のうつろい・時のうつろい」

※「生誕140年 吉田博展」をご観覧の方は無料

## 記者レクチャー

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

4月8日(金)／15:00より(1時間程度)／10階会議室にて(その後、8・7階展示室へご案内いたします)

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

また、17:00より11会講堂にてオープニング・レセプションを行います。吉田博のご親族など関係者も参加されますので、記者レクチャーとあわせてご出席ください。

## 次回展予告

### 次回展予告

所蔵作品展 「ふたつの柱—江戸絵画／現代美術をめぐる」6月1日(水)～6月26日(日)

「河井寛次郎と棟方志功 日本民藝館所蔵品を中心に」7月6日(水)～8月28日(日)

## 交通案内

千葉市美術館

〒260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8

Tel. 043-221-2311 (代) / FAX. 043-221-2316 / <http://www.ccma-net.jp>

◎ JR 千葉駅東口より

・徒歩約15分

・バスのりば ⑦ より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩約3分

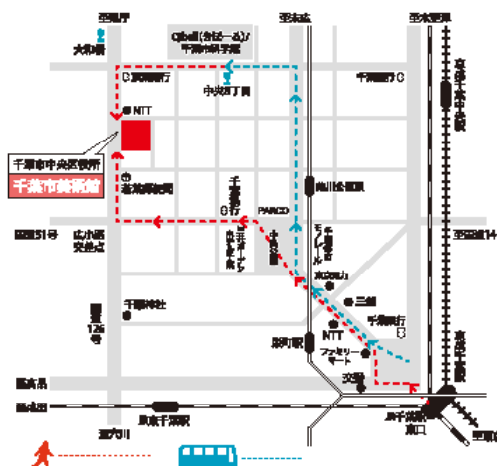
・千葉都市モノレール県庁前方面行「よしかわ葎川公園駅」下車徒歩約5分

◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

◎千葉市中央区役所と同じ建物です

◎地下に区役所と共有の駐車場がありますが、混雑が予想されますので、なるべく公共の交通機関をご利用ください



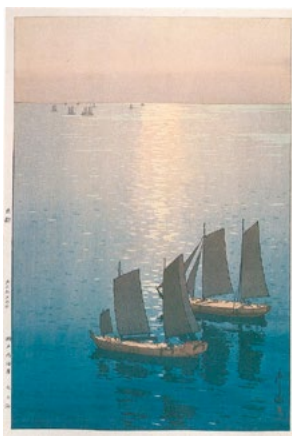


展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介くださいますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。

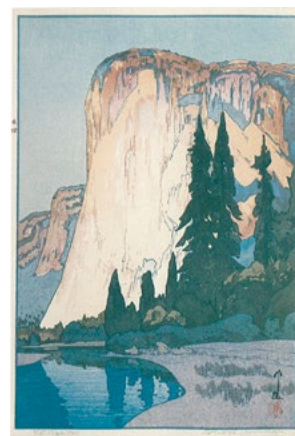
## 生誕140年 吉田博展



1.《日本アルプス十二題 剣山の朝》  
木版 大正15(1926)年  
千葉市美術館蔵



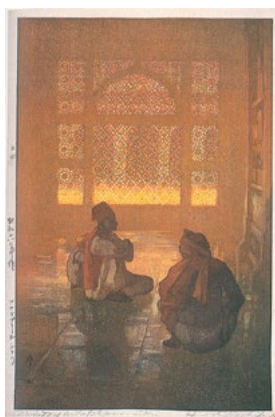
2.《瀬戸内海集 光る海》  
木版 大正15(1926)年  
個人蔵



3.《エル・キャピタン》  
木版 大正14(1925)年  
千葉市美術館蔵



4.《雲海に入る日》  
油彩 大正11(1922)年  
個人蔵



5.《フワテプブルシクリ》  
木版 昭和6(1931)年  
個人蔵



6.《急降下爆撃》  
油彩 昭和16(1941)年  
個人蔵



7. 写生帖より(中国)  
昭和13-15(1938-40)年  
個人蔵



8.《穂高山》  
油彩 大正期 個人蔵



9.《菴坂》  
水彩 明治27-32(1894-99)年  
静岡県立美術館蔵

生誕140年 吉田博展  
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- \* 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- \* 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- \* 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- \* 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- \* お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。  
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館  
広報担当 行  
FAX: 043-221-2316

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ：

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 《日本アルプス十二題 剣山の朝》 木版 大正15(1926)年 千葉市美術館蔵
2. 《瀬戸内海集 光る海》 木版 大正15(1926)年 個人蔵
3. 《エル・キャピタン》 木版 大正14(1925)年 千葉市美術館蔵
4. 《雲海に入る日》 油彩 大正11(1922)年 個人蔵
5. 《フワテプールシクリ》 木版 昭和6(1931)年 個人蔵
6. 《急降下爆撃》 油彩 昭和16(1941)年 個人蔵
7. 写生帖より(中国) 昭和13-15(1938-40)年 個人蔵
8. 《穂高山》 油彩 大正期 個人蔵
9. 《籠坂》 水彩 明治27-32(1894-99)年 静岡県立美術館蔵

■ プレゼント用招待券申込

(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5 組 10 名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。)

チケット送付先  
ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311(代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

HP. <http://www.ccma-net.jp/>

広報担当：磯野 愛